YAMAHA

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

XSR

XSR900

B90-28199-J0■

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために..... 1-1
あなた自身と同乗者のために 1-1
歩行者と他の車のために 1-5
環境・住民の方との調和のために.....1-6

各部の名称 2-1
左側面.....2-1
右側面.....2-2
運転装置と計器類.....2-3

各部の取り扱いと操作..... 3-1
キーの取り扱い.....3-1
イモビライザーシステム 3-2
メインスイッチ.....3-2
警告灯と表示灯.....3-3
マルチファンクションメーター 3-6
盗難警報器（別売アクセサリー）....3-12
D-mode（ドライブモード）.....3-12
ハンドルスイッチ.....3-13
ABS.....3-15
トラクションコントロール
システム 3-16
フューエルタンクキャップ 3-17
燃料.....3-18
シート.....3-19
ヘルメットホルダー.....3-19
小物入れ 3-20
フロントフォークの調整.....3-20
リヤクッションの調整.....3-22
荷掛けフック 3-23
ブレーキレバーの握り調整 3-23
サイドスタンド.....3-24
イグニッションサーキット
カットオフシステム.....3-24
DC コネクター.....3-26

日常点検 4-1
日常点検の実施 4-1
日常点検箇所／点検内容.....4-1

運転操作 5-1
エンジン始動 5-1
ギヤチェンジのしかた.....5-2
ブレーキ.....5-2
ならし運転.....5-3
駐車.....5-3

点検整備 6-1
点検整備の実施 6-1
サービスツール 6-2
エンジンオイル 6-2
エンジンのかかり具合、
異音の点検 6-3
低速、加速の状態の点検.....6-4
冷却水.....6-4
エアクリーナーエレメントの交換 6-6
タイヤ.....6-6
クラッチ.....6-8
ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検 6-8
ブレーキランプスイッチの点検 6-9
ブレーキパッドの点検.....6-9
ブレーキ液量の点検.....6-10
ブレーキ液の補給 6-10
ドライブチェーン 6-12
ドライブチェーンの給油.....6-13
バックミラー 6-13
車体各部の給油脂状態の点検.....6-14
アンダーブラケットの
取り付け状態の点検
（ステアリングステム）.....6-14
バッテリー.....6-15
ヒューズ交換.....6-16
灯火装置および方向指示灯の
点検.....6-19
運行において異常が認められた
箇所の点検.....6-19

お車の手入れ 7-1
洗車 7-1
アルミフレーム、
キャストホイールの取り扱い.....7-2
保管のしかた.....7-3
アフターケア用品について.....7-3

製品仕様 8-1

ユーザー情報 9-1
二輪車を廃棄する場合は？.....9-1
サービスマニュアル（別売）の
紹介.....9-2
車両情報.....9-2

索引..... 10-1

JAU27281

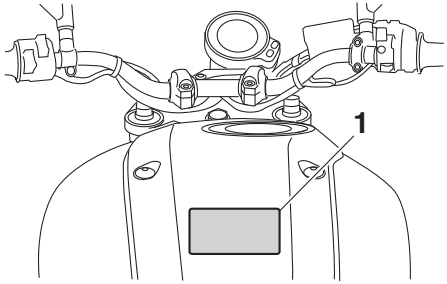
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737A

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警　告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
● 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

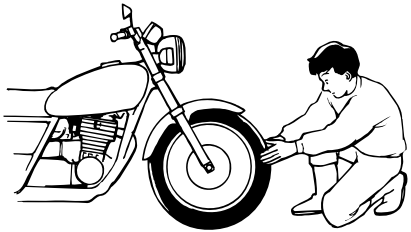
JWA11601

警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

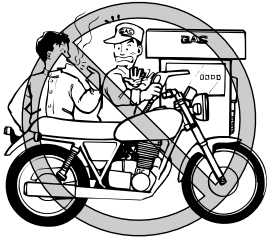
次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受

けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

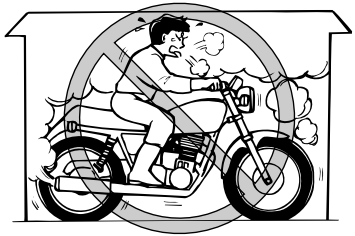
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



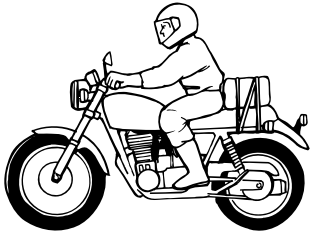
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



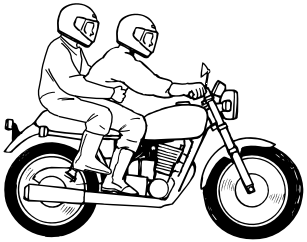
荷物はしっかり固定する



- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている

高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

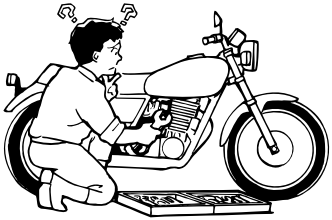
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



JCA15221

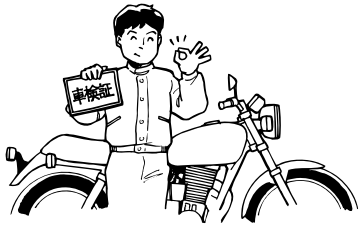
注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm^3 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

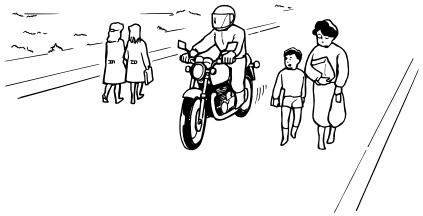


JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



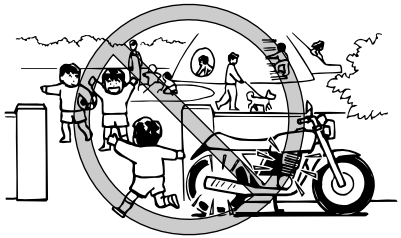
駐車

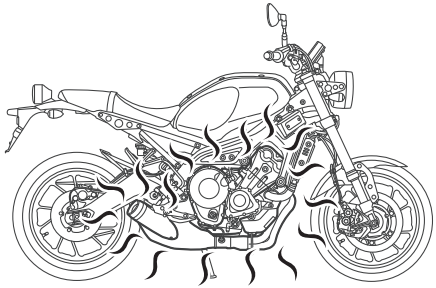
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

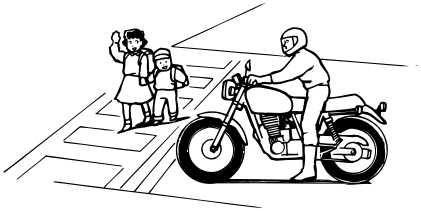
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27581

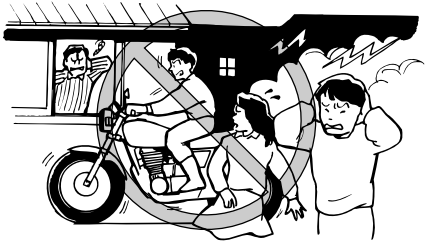
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

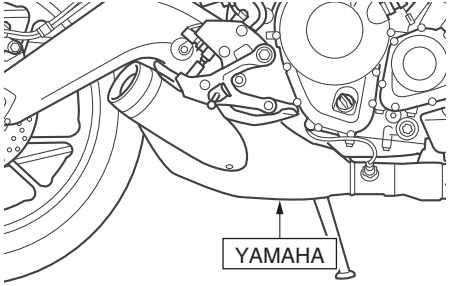


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。

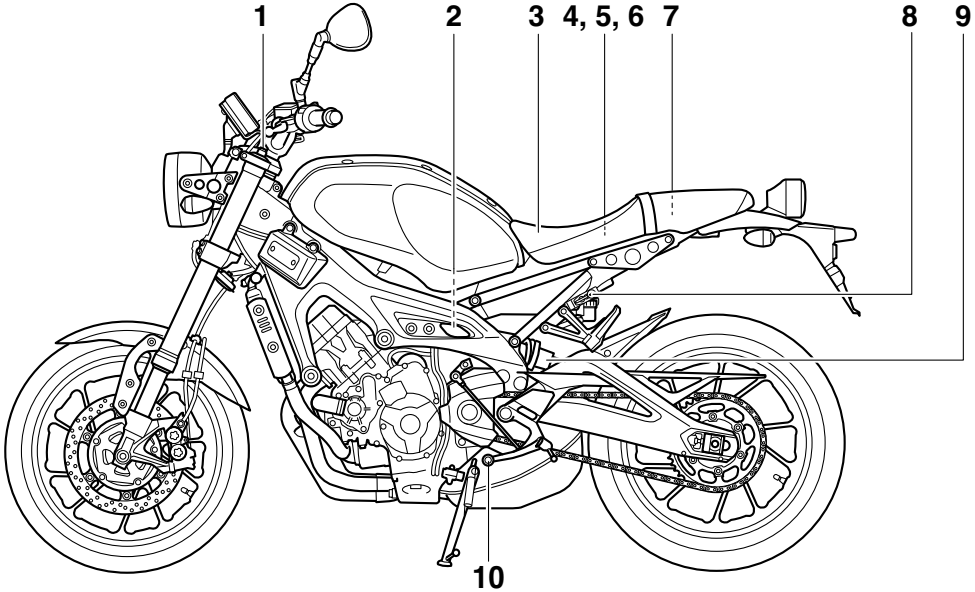


環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU10411

左側面

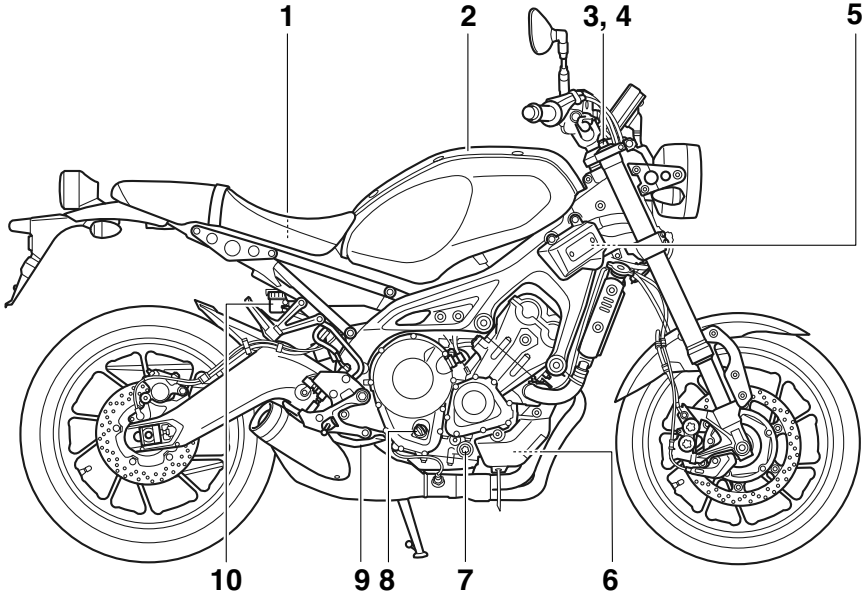


1. フロントフォークスプリングプリロードアジャスター（P3-20）
2. リヤクッション伸側減衰力アジャスター（P3-22）
3. シート（P3-19）
4. ヒューズボックス 2 （P6-16）
5. メインヒューズ（P6-16）
6. フューエルインジェクションヒューズ（P6-16）
7. 小物入れ（P3-20）
8. ヘルメットホルダー（P3-19）
9. リヤクッションスプリングプリロードアジャスター（P3-22）
10. シフトペダル（P5-2）

各部の名称

JAU10421

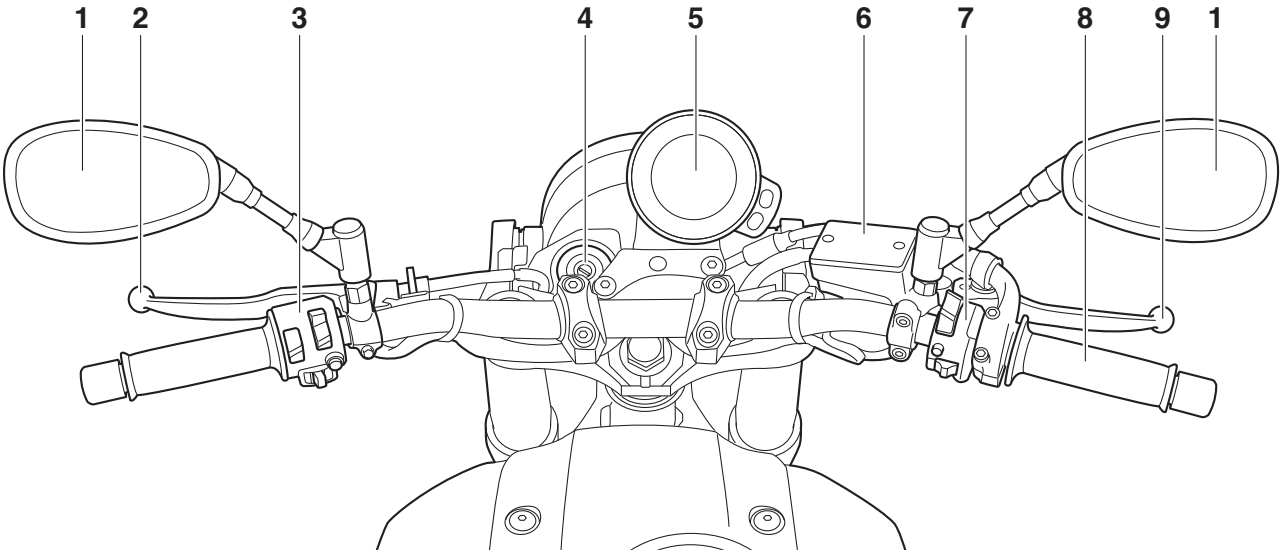
右側面



1. バッテリー（P6-15）
2. フューエルタンクキャップ（P3-17）
3. フロントフォーク伸側減衰力アジャスター（P3-20）
4. フロントフォークスプリングプリロードアジャスター（P3-20）
5. ヒューズボックス 1（P6-16）
6. リカバリータンク（P6-4）
7. エンジンオイル点検窓（P6-2）
8. オイル注入口（P6-2）
9. ブレーキペダル（P6-8）
10. リヤブレーキリザーバータンク（P6-10）

JAU10431

運転装置と計器類

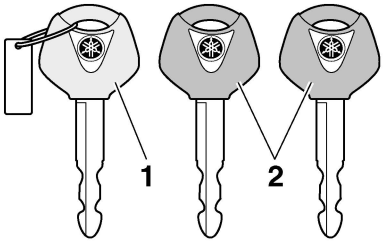


1. バックミラー（P6-13）
2. クラッチレバー（P6-8）
3. ハンドルスイッチ（左）（P3-13）
4. メインスイッチ / ハンドルロック（P3-2）
5. マルチファンクションメーター（P3-6）
6. フロントブレーキリザーバータンク（P6-10）
7. ハンドルスイッチ（右）（P3-13）
8. スロットルグリップ
9. ブレーキレバー（P6-8）

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーの ID を登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- **メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。**
- **キーを水に浸けないでください。**
- **キーを高温になる場所に置かないでください。**
- **キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **キーに電波を発信するものを近づけないでください。**
- **キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。**
- **キーを分解しないでください。**
- **複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。**
- **金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。**

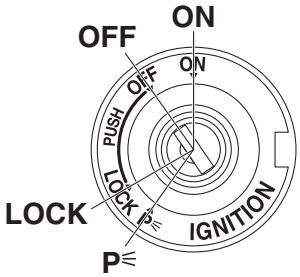
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 3-5 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要　点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU10551

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要　点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

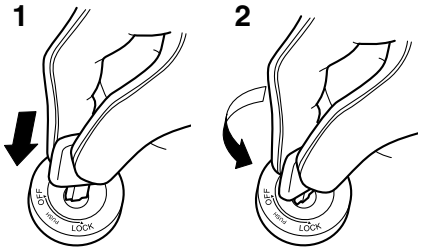
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU1068B

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



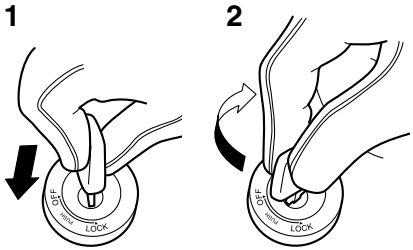
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

JAU59680

P⇜（パーキング）

ハザードランプと方向指示灯を点灯させることができますが、その他の電気回路はオフになります。キーを抜くことができます。キーを P⇜ にする前に、ハンドルをロックしてください。

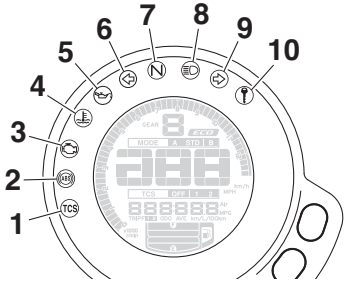
JCA20760

注 意

ハザードランプおよび方向指示灯の長時間の使用は、バッテリーあがりの原因になります。

JAU49399

警告灯と表示灯



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
2. ABS 警告灯 “ABS”
3. エンジン警告灯 “⚙”
4. 水温警告灯 “🌡”
5. エンジンオイル量警告灯 “🛢”
6. 方向指示器表示灯（左）“⇦”
7. ニュートラルランプ “N”
8. ヘッドライト上向き表示灯 “≡O”
9. 方向指示器表示灯（右）“⇨”
10. イモビライザーシステム表示灯 “🔑”

JAU11022

方向指示器表示灯 “⇦ ⇨”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11061

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11081

ヘッドライト上向き表示灯 “≡D”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU11256

エンジンオイル量警告灯 “⛽”

エンジンオイル量が少なくなると点灯します。エンジンオイル量を点検し、不足しているときは早めに補給してください。（6-2 ページ参照）

要　点

- メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。エンジンオイル量が充分にもかかわらず、点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- エンジンオイル量が充分であっても、坂道を走行しているときや急な加減速の間は警告灯が点滅することがありますが、これは異常ではありません。
- このモデルには、エンジンオイル量警告灯回路の自己診断機能がついています。エンジンオイル量警告灯回路が故障した場合、警告灯が繰り返し点滅します。故障した場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA12951

注 意

- **何度も点滅したり、点灯したままになるときは、エンジンオイル量を点検してください。不足しているときは、早めに補給してください。オイル量が正常なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **警告灯が点灯したまま走行すると、故障の原因となります。**

JAU11447

水温警告灯 “🌡”

エンジン冷却水が規定温度以上になったとき、警告灯が点灯するか、点滅します。このときは、エンジンを止めて冷やしてください。

JCA11851

注 意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

要　点

メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約２秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAU73171

エンジン警告灯 “⚙”

エンジンや車両制御の電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

メインスイッチを “ON” にしたとき、警告灯の電気回路の診断が行われ、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。

点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU59120

ABS 警告灯 “(ABS)”

走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。このような場合、直ちにヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。（3-15 ページ参照）

警告灯の電気回路は、以下の手順に従って点検することができます。

1. スターター／エンジンストップスイッチを “◯” にセットし、メインスイッチを ON にします。
2. 警告灯が点灯し、10 km/h 以上の速度で走行したあと消灯することを点検します。
3. 警告灯が点灯しないか、点灯したまま消灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路

の点検を受けてください。

JWA16041

警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても ABS 警告灯が消灯しない、または走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。上記のどちらかが起こった場合、または ABS 警告灯が全く点灯しない場合は、急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

要 点

スタータースイッチを押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

JAU73271

トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

トラクションコントロールが有効になっているとき、トラクションコントロールシステム表示灯が点滅します。

乗車中にトラクションコントロールシステム（3-16 ページ参照）が無効になると、トラクションコントロールシステム表示灯とエンジン警告灯が点灯します。

JAUM3621

イモビライザーシステム表示灯 “ ”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを “OFF” にすると、イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

表示灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチをONにすると表示灯がいったん点灯し、すぐに消灯します。

点灯しないときや点灯したままになっているとき、または通常とは異なる周期で点滅するときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

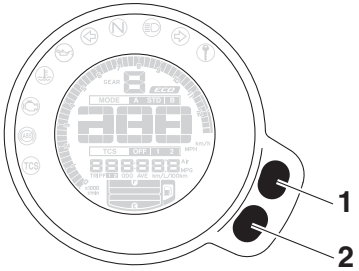
要 点

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

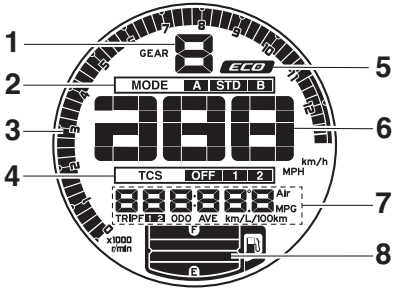
1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。他のイモビライザーシステムのキーがあると、ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。
2. サブキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、メインキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAU73253

マルチファンクションメーター



1. トップセットボタン
2. ボトムセットボタン



1. ギヤポジション表示
2. ドライブモード表示
3. タコメーター
4. トラクションコントロールシステム表示
5. エコ表示 “ECO”
6. スピードメーター
7. マルチファンクションディスプレイ
8. 燃料計

JWA12423

警 告

マルチファンクションメーターの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

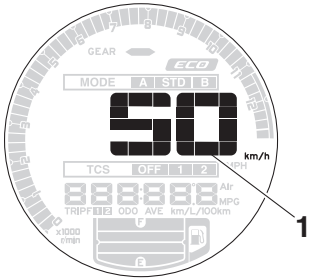
マルチファンクションメーターには以下の機能があります。

- スピードメーター
- タコメーター
- 燃料計
- エコ表示
- ギヤポジション表示
- ドライブモード表示
- トラクションコントロールシステム表示
- マルチファンクションディスプレイ

要　点

トップセットボタンやボトムセットボタンを使用するときは、メインスイッチを ON にしてください。（メーター照明の調整及びメインスイッチがON以外の位置での時計表示を除く。）

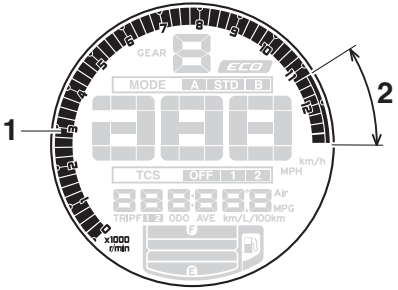
スピードメーター



1. スピードメーター

車の速度を示します。

タコメーター



1. タコメーター
2. レッドゾーン

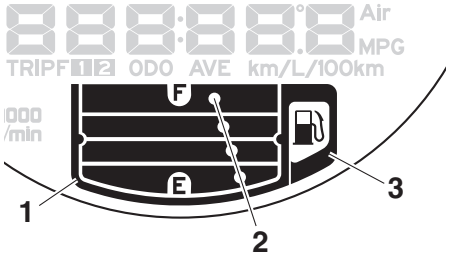
毎分のエンジン回転数を示します。
電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、目盛りが一旦最大値まで動き、0 に戻ります。

JCA21840

注 意

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。
レッドゾーン : 11250 r/min 以上

燃料計



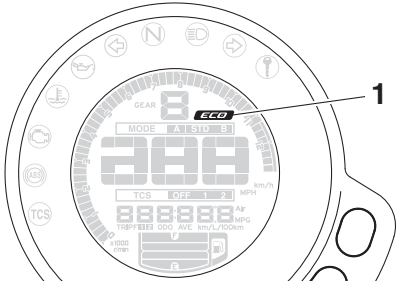
1. フレーム
2. 燃料計
3. 燃料残量警告表示 “⛽”

メインスイッチを ON にするとフューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントの数が減ります。ガソリンの残量が少なくなると、燃料計のフレームと残りの 1 セグメントが点滅して知らせます。ガソリンの残量が少なくなったら、早めに補給してください。

要 点

この燃料計には、自己診断機能が装備されています。電気回路に異常が検出された場合、燃料計のセグメントとフレーム、燃料残量警告表示 “⛽” が同時に点滅します。この場合は、ヤマハ販売店に電気回路の点検を依頼してください。

エコ表示



1. エコ表示 “ECO”

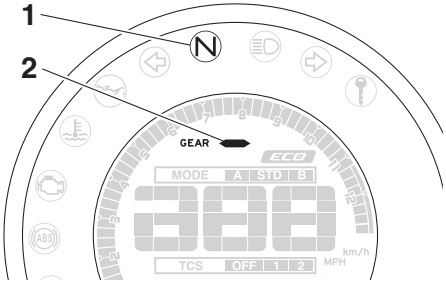
この表示は、環境にやさしく、燃費の良い状態で車両を運転している場合に点灯します。表示は車両が停止すると消灯します。

要 点

燃費を抑えるには、次のことを心がけて運転してください。

- 加速中にエンジン回転数を高くしない。
- 一定の速度で走行する。
- 速度に適したギヤを選択する。

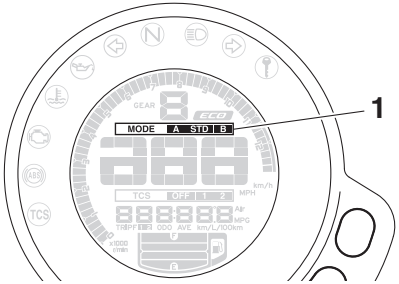
ギヤポジション表示



1. ニュートラルランプ “**N**”
2. ギヤポジション表示

選択しているギヤポジションを表示します。ギヤがニュートラルのときは、“ - ” を表示し、ニュートラルランプが点灯します。

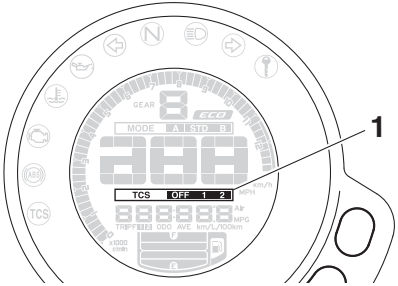
ドライブモード表示



1. ドライブモード表示

“STD”, “A” または “B” のうち、選択されたドライブモードを表示します。（詳しくは 3-12 ページ、3-14 ページを参照してください。）

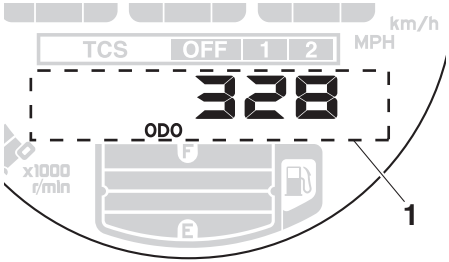
トラクションコントロールシステム表示



1. トラクションコントロールシステム表示

“1”、“2” または “OFF” のうち、選択されたトラクションコントロールシステムのモードを表示します。トラクションコントロールシステムや設定についての詳細は、3-16 ページを参照してください。

マルチファンクションディスプレイ



1. マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- オドメーター
- トリップメーター（TRIP 1/TRIP 2）
- フューエルトリップメーター
- 瞬間燃費表示
- 平均燃費表示
- 水温表示
- 吸気温度表示
- 時計
- 明るさ調節表示

ボトムセットボタンを押すごとに、オドメーター、トリップメーター、瞬間燃費表示 “_ _._ km/L” または “_ _._ L/100 km”、平均燃費表示 “AVE_ _._ km/L” ま

たは “AVE_ _._ L/100 km”、水温表示 “_ _ °C”、吸気温度表示 “Air_ _ °C”、時計 “__ : __” が下記の順で切り替わります。

ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → _ _._ km/L または _ _._ L/100 km → AVE_ _._ km/L または AVE_ _._ L/100 km → _ _ °C → Air_ _ °C → CLOCK__:__ → ODO

要　点

トップセットボタンを押すと、逆の順序で表示が切り替わります。

オドメーター／トリップメーター

オドメーターは、走行した総距離を表示します。
トリップメーターは、リセットしてからの走行距離を積算します。

要　点

- トリップメーターのリセットは、ボトムセットボタンを押してリセットしたいトリップメーターを表示させ、表示が点滅している間にトップセットボタンを1秒以上押します。
- オドメーターは、最大値（999999 km）を超えると最大値で固定されます。
- トリップメーターは、最大値（9999.9km）を超えるとリセットされます。

フューエルトリップメーター

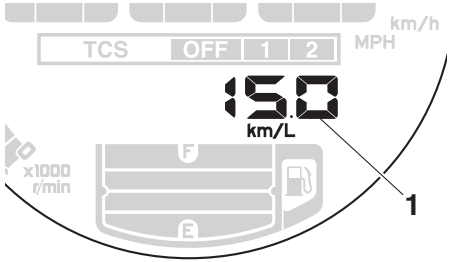
燃料計のフレームと残りの1セグメントが点滅を始めると、表示は自動的にフューエルトリップメーター “TRIP F” に切り替わり、その時点からの走行距離を表示します。このときボトムセットボタンを押すと、フューエルトリップメーター、瞬間燃費表示、平均燃費表示、水温表示、時計、吸気温度表示、オドメーター、トリップメーターが下記の順で切り替わります。

TRIP F → _ _._ km/L または _ _._L/100 km → AVE_ _._ km/L または AVE_ _._ L/100 km → _ _ °C → Air_ _ °C → CLOCK__:__ → ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP F

要　点

フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にリセットされ、トリップメーターの表示になります。

瞬間燃費表示



1. 瞬間燃費表示

瞬間燃費の表示は、“km/L” または “L/100 km” を表示することができます。

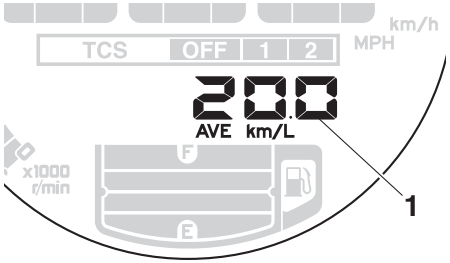
- “km/L”：現在の走行条件で燃料 1.0 L を使って走行可能な距離が表示されます。
- “L/100 km”：現在の走行条件で 100 km 走行するために必要な燃料の量が表示されます。

“km/L” 表示と “L/100 km” 表示を切り替えるには、ボトムセットボタンを 2 秒押します。

要　点

20 km/h 未満の速度で走行している場合は、“_ _._” と表示されます。

平均燃費表示



1. 平均燃費表示

最後にリセットした地点からの平均燃費を表示します。
平均燃費の表示は、“AVE_ _._ km/L” または “AVE_ _._ L/100 km” を表示することができます。

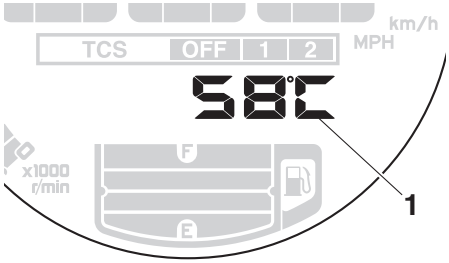
- “AVE_ _._ km/L”：燃料 1.0 L を使って走行可能な平均距離が表示されます。
- “AVE_ _._ L/100 km”：100 km 走行するために必要な燃料の平均量が表示されます。

“AVE_ _._ km/L” 表示と “AVE_ _._ L/100 km” 表示を切り替えるには、ボトムセットボタンを 2 秒押します。
平均燃費表示をリセットするには、トップセットボタンを 1 秒押します。

要　点

平均燃費表示のリセット後は、車両が 1 km 走行するまで “_ _._” と表示されます。

水温表示



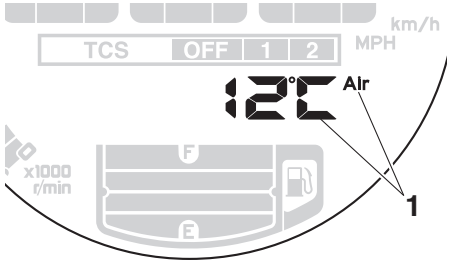
1. 水温表示

40 °C から 116 °C の水温を 1 °C 刻みで表示します。
“HI” が点滅した場合、エンジンを止めて冷やしてください。

要　点

- 水温が40 °C未満の場合、“Lo” が表示されます。
- 水温は、気象条件およびエンジン負荷により変化します。

吸気温度表示



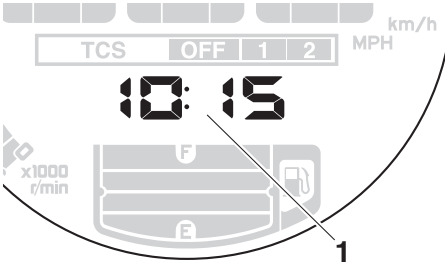
1. 吸気温度表示

–9 °C から 99 °C の吸気温度を 1 °C 刻みで表示します。

要　点

- 吸気温度が –9 °C を下回った場合、“Lo” と表示されます。
- 吸気温度は、低速走行時 (20km/h 以下)、信号待ちや踏切待ちのときなど、外気温度と異なる場合があります。

時計



1. 時計

この時計は 12 時間表示です。メインスイッチがON以外の位置でボトムセットボタンを押すと時計が 10 秒間表示されます。

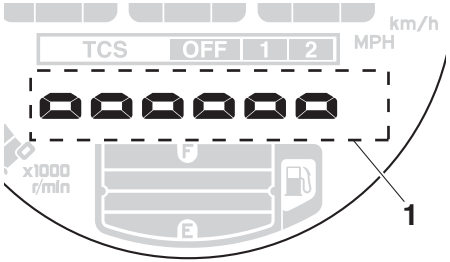
時刻調整のしかた

1. メインスイッチを ON にします。
2. マルチファンクションディスプレイの表示を時計に切り替えます。
3. ボトムセットボタンとトップセットボタンを同時に 2 秒押します。
4. <時>の表示が点滅したら、トップセットボタンを押して<時>を合わせます。
5. ボトムセットボタンを押すと、<分>の表示が点滅します。
6. トップセットボタンを押して<分>を合わせます。
7. ボトムセットボタンを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

要　点

<時><分>の設定時、トップセットボタンを短く押すと数が 1 つずつ増え、長く押すと連続して増えます。

メーター照明の調整



1. 明るさ調節表示

この車のメーターには、運転者の好みに合わせて照明の明るさを調整できる機能があります。

メーター照明の調整のしかた

調整は、以下の手順で行ってください。

JWA14851

⚠警 告

メーター照明の調整をするときは、安全な場所に車を停車させて行ってください。

1. メインスイッチが OFF の状態でボトムセットボタンを押し、そのままメインスイッチを ON にしてマルチファンクションメーターの表示が明るさ調節表示だけになるまで待ちます。
2. トップセットボタンを押して明るさを調整します。
   トップセットボタンを 1 回押すごとにセグメントの数が 1 個ずつ増え、同時にメーターの照明が明るくなります。
   明るさ調節表示のセグメントが 6 個のとき（一番明るい設定のとき）にトップセットボタンを押すと、セグメントが 1 個になり、メーターの照明が暗くなります。
3. 好みの明るさになったら、ボトムセットボタンを押します。
   メーター照明の設定が保存され、マルチファンクションメーターの表示が通常表示になります。

JAU12333

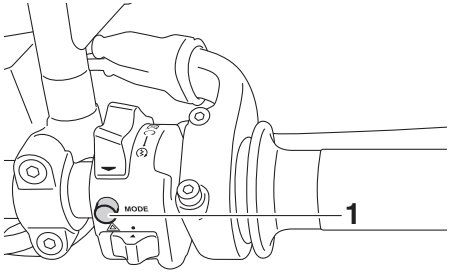
盗難警報器（別売アクセサリー）

この車には、別売アクセサリーの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU47634

D-mode（ドライブモード）

D-mode は電子制御により、3 つの走行モードを選択できるシステムです。
ドライブモードスイッチを押すごとに、モードが切り替わります。（詳細は 3-14 ページを参照してください。）



1. ドライブモードスイッチ “MODE”

要　点

ドライブモードスイッチをご使用になる前に、各モードの特長と操作内容を充分理解してから操作してください。

“STD” モード

“STD” モードは、さまざまな走行条件に適したモードです。
スムーズでスポーティな走行フィーリングが低速から高速まで楽しめるモードです。

“A” モード

“A” モードは、“STD” モードに対して、よりスポーティなエンジンレスポンスを低中速域で楽しめるモードです。

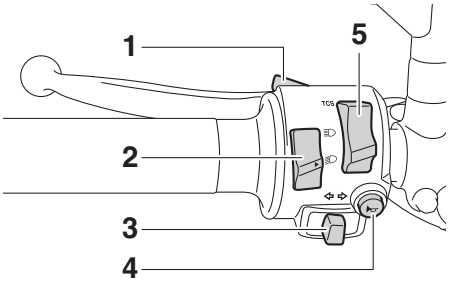
“B” モード

“B” モードは、“STD” モードに対して、より繊細なスロットル操作が必要なシーンなどで穏やかなレスポンスを発揮するモードです。

JAU1234K

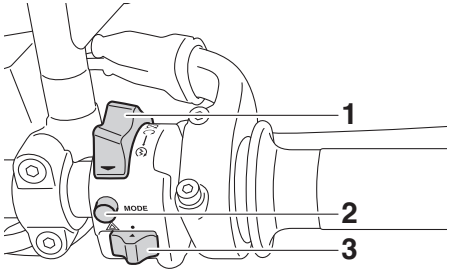
ハンドルスイッチ

<左>



1. パッシングライトスイッチ “≡D”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≡D/≡D”
3. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
4. ホーンスイッチ “”
5. トラクションコントロールシステムスイッチ “TCS”

<右>



1. スターター／エンジンストップスイッチ “//”
2. ドライブモードスイッチ “MODE”
3. ハザードスイッチ “”

JAU12352

パッシングライトスイッチ “≡D”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが“≡D”のときは、使用できません。

JAU12401

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≡D/≡D”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≡D（上向き）：遠くを照らします。
≡D（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU12461

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
⇨：右側の方向指示灯が点滅します。
⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

警　告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注　意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ “”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU73391

トラクションコントロールシステムスイッチ “TCS”

スロットルを全閉にしてスイッチを上下に押すと、トラクションコントロールシステムの設定をTCS“1”またはTCS“2”に切り替えできます。
停車中にスイッチを上側へ2秒間押すと、トラクションシステムコントロールシステムを“OFF”にできます。再度“ON”にするときは、スイッチを下側へ押します。

要　点

- 現在のトラクションコントロールシステムの設定は、トラクションコントロールシステム表示で確認できます（3-8ページ参照）。
- トラクションコントロールシステムの説明や設定については、3-16ページを参照してください。

JAU68270

スターター／エンジンストップスイッチ “⊛/◯/⊗”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを“◯”に合わせてから、スイッチを“⊛”まで押してください。

JCA11882

注 意

- **スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、5-1ページの始動手順を参照してください。**

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには“⊗”にします。通常は“◯”にしておきます。

JWA17700

⚠警 告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20770

注 意

- **非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを“◯”→“⊗”→“◯”にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。**

要　点

“⊗”にすると、エンジンは始動できません。

JAU12735

ハザードスイッチ “⚠”

メインスイッチをONまたはP⋚にした状態で、スイッチを“⚠”にスライドし、ハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU73321

ドライブモードスイッチ “MODE”

JWA15341

⚠警 告

走行中はドライブモードスイッチを操作しないでください。

ドライブモードスイッチを押すごと

に、“STD” モードと “A” モード、“B” モードが下記の順で切り替わります。
STD → A → B → STD
ドライブモードを切り替えるときは、スロットルグリップを閉じてください。

要　点

- 選択されたモードは、マルチファンクションメーターに表示されます。（3-8 ページ参照）
- 選択されたモードは、車両の電源が “OFF” になっても記憶されます。

JAU63040

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

警 告

- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。**

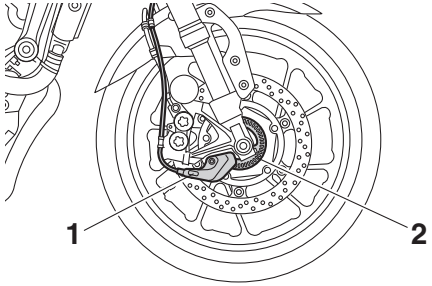
要　点

- ABSが作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- この ABS には、ABS が作動している状態（ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

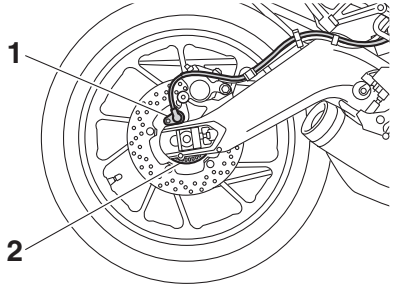
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター



1. リヤホイールセンサー
2. リヤホイールセンサーローター

JAU74350

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステム（TCS）は、未舗装または濡れた道路のような滑りやすい路面で加速するとき、加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。

JWA15432

警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

トラクションコントロールが作動すると、“TCS” 表示灯が点滅します。また、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。

特定の条件下では、トラクションコントロールシステムが自動的に解除されることがあります。この場合、“TCS” 表示灯と “ ” 警告灯が点灯します。

トラクションコントロールシステム表示（3-8 ページ参照）は、現在の TCS の設定を示します。TCS の設定には、以下の 3 つがあります。

TCS “OFF”

トラクションコントロールシステムは OFF になっています。

TCS “1”

トラクションコントロールシステムの効果が最小になっています。

TCS “2”

トラクションコントロールシステムの効果が最大になっています。タイヤの空転が最も強力に制御されます。

要 点

- トラクションコントロールシステムの設定は、トラクションコントロールスイッチで切り替えます（3-14 ページ参照）
- トラクションコントロールシステムの ON/OFF は、停車しているときにのみ切り替えられます。
- メインスイッチを “ON” にすると、最後に設定されていたTCS “1” またはTCS “2” の設定にセットされます。
- 車両が泥や砂などの軟らかい地面には

まったとき、トラクションコントロールシステムを OFF にすると、抜け出しやすくなる場合があります。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。(6-6 ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムのリセット

以下のようになった場合、トラクションコントロールシステムは自動的に解除されます。

- 乗車中に前輪または後輪が地面から離れたとき
- 乗車中に後輪の過度な空転が検知されたとき
- 整備の際などに、メインスイッチが "ON" のまま、前後どちらかの車輪が回転したとき

トラクションコントロールシステムが解除されると、"TCS" 表示灯と "" 警告灯の両方が点灯します。
この場合、次のようにしてリセットしてください。

1. 車を止め、メインスイッチを "OFF" にします。
2. 2 ～ 3 秒待ってから、メインスイッチを再び "ON" にします。
3. "TCS" 表示灯が消灯し、システムが有効になります。

要 点

リセット操作後も "TCS" 表示灯が点灯したままの場合、乗車は可能ですが、できるだけ早くヤマハ販売店で点検を受けてください。

4. ヤマハ販売店に点検と "" 警告灯の消灯を依頼します。

JAU13075

フューエルタンクキャップ

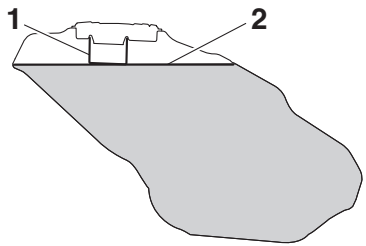
JWA12172

警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

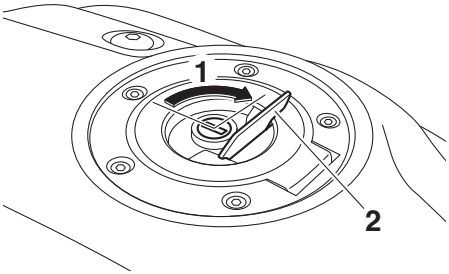
- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実**

に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. 解除
2. ロックカバー

1. ロックカバーを開けます。
2. キーをロックに差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
　無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
　約 14 L

JCA12512

注 意

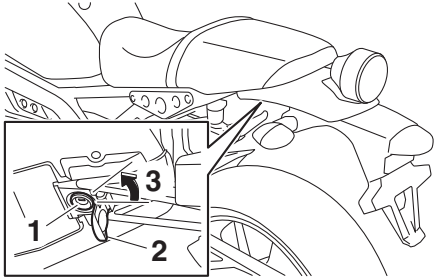
- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU57991

シート

シートの取り外しかた

1. シートロックカバーを開いてキーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

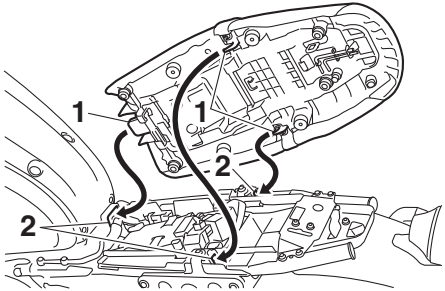


1. シートロック
2. シートロックカバー
3. 解除

2. キーを回した状態でシートの後部を持ち上げ、シートを取り外します。

シートの取り付けかた

1. シートの突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー

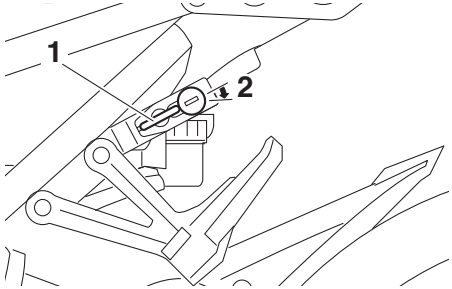
2. シートの後部を押し、シートをロックします。
3. キーを抜き取り、ロックカバーを閉めます。

要　点

走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

警　告

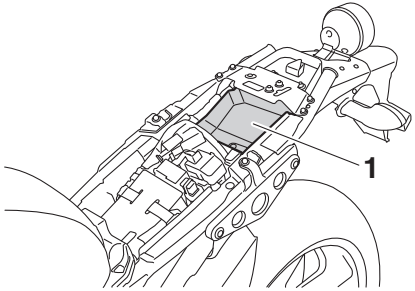
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要　点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU14454

小物入れ



1. 小物入れ

シートの下に小物入れがあります。（3-19ページ参照）

JWA12431

警 告

小物入れ内に積む荷物は、荷重制限 3 kg を越えないでください。

JCA12972

注 意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物は入れないでください。**

要 点

- 車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れたままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

JAU62450

フロントフォークの調整

フロントフォークには、スプリングプリロードアジャスターが装備されています。また右側フロントフォークには伸側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA14671

警 告

スプリングプリロードアジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

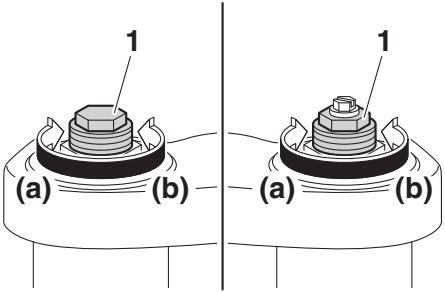
JCA11911

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

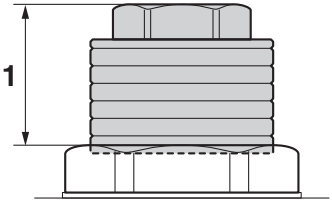
スプリングプリロード

スプリングプリロードを大きくしサスペンションを硬くするには、左右のフロントフォークのスプリングプリロードアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくしサスペンションを軟らかくするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (b) 方向に回します。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは小さくなり、セット長 A を短くすると、スプリングプリロードは大きくなります。



1. セット長 A

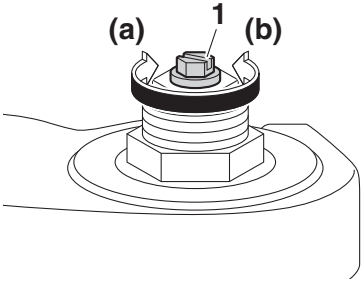
スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
セット長 A = 19.0 mm
標準：
セット長 A = 16.0 mm
最大（ハード）：
セット長 A = 4.0 mm

伸側減衰力

伸側減衰力は右側フロントフォークで調整します。

伸側減衰力を強めるには右側フロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるには右側フロントフォークのアジャスターを (b) 方向に回します。

（アジャスターを (a) 方向にいっぱいに回してから、(b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b)* 方向へ 12 段
標準：
(b)* 方向へ 7 段
最大（ハード）：
(b)* 方向へ 0 段
* （アジャスターを (a) 方向へいっぱいに回したところを基点とします。）

要　点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JAU57940

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスターと伸側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA12441

警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

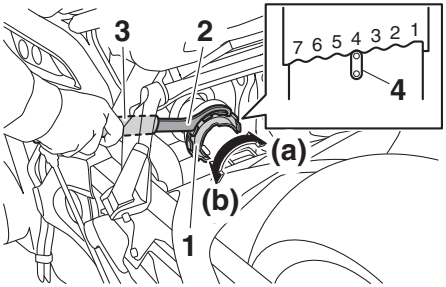
JCA11911

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、スプリングプリロードアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。



1. スプリングプリロードアジャスター
2. 調整レンチ
3. エクステンション
4. インジケーター

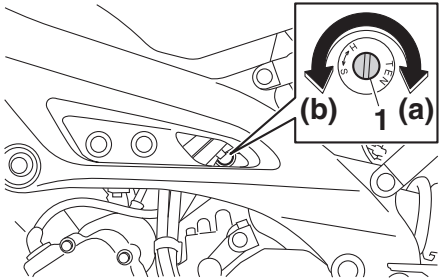
要 点

- アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。
- サービスツール内の調整レンチとエクステンションを使って調整を行います。

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
1 段
標準：
4 段
最大（ハード）：
7 段

伸側減衰力

伸側減衰力を強めるには伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるにはアジャスターを (b) 方向に回します。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b)* 方向へ 3 回転
標準：
(b)* 方向へ 1 1/2 回転
最大（ハード）：
(a) 方向へいっぱいにアジャスターを回したところ
*（アジャスターを (a) 方向へいっぱいに回したところを基点とします。）

要　点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA10222

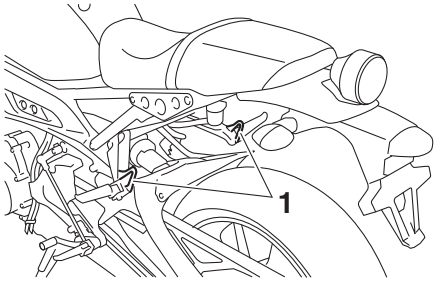
警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU15152

荷掛けフック



1. 荷掛けフック

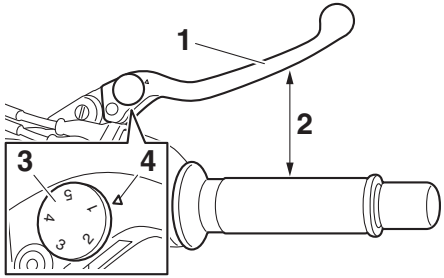
タンデムフットレストに、荷掛けフックがあります。

JAU45542

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。

握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター
4. “△” マーク

要　点

アジャスターの数字と “△” マークを、必ず合わせてください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU68280

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11541

警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

エンジンが停止した状態で：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.スターター/エンジンストップスイッチを“◯”にします。
3.メインスイッチをONにします。
4.ギヤをニュートラルに入れます。
5.スターター/エンジンストップスイッチを“⊛”まで押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　　**いいえ** → ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
6.サイドスタンドを上げます。
7.クラッチレバーを握ります。
8.ギヤを入れます。
9.サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい　　**いいえ** → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
10.サイドスタンドを上げます。
11.クラッチレバーを握ります。
12.スターター/エンジンストップスイッチを“⊛”まで押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　　**いいえ** → クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。
走行可能です。

JAU70640

DC コネクター

この車にはDCコネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU15599

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAUM3631

要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- メインスイッチがONのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。また、この機構が働くと車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。
- 車両が停止した状態で20分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU66080

エンジン始動

JWA11562

⚠警 告

- **エンジンを始動するときには、3-24 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスイッチを ON にし、スターター／エンジンストップスイッチが “◯” にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチを “⊛” まで押して、エンジンを始動します。

要　点

スターター／エンジンストップスイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

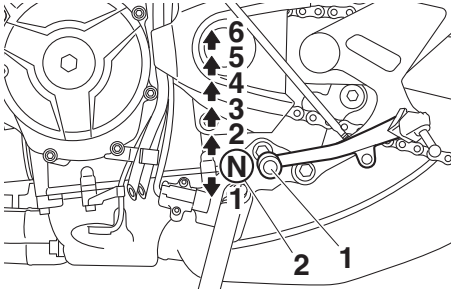
JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU27514

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の 6 段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12032

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

JAU58280

ギヤチェンジの推奨速度

シフトアップ時およびシフトダウン時のギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

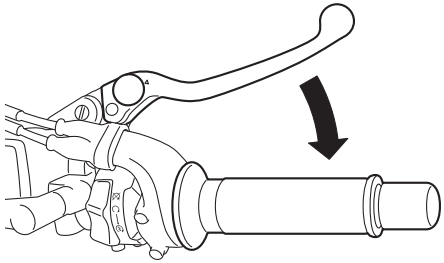
シフトアップ時の推奨速度：
1st → 2nd: 20 km/h
2nd → 3rd: 30 km/h
3rd → 4th: 40 km/h
4th → 5th: 50 km/h
5th → 6th: 60 km/h
シフトダウン時の推奨速度：
6th → 5th: 45 km/h
5th → 4th: 35 km/h
4th → 3rd: 25 km/h

JAU33175

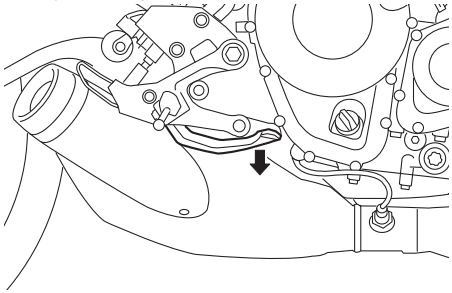
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



JWA11573

警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特に**

どちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JAU31471

ならし運転

JAU27663

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 6800 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠ 警 告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

警 告

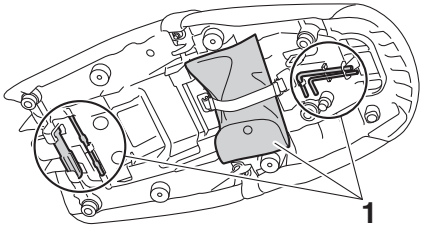
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU39692

サービスツール



1. サービスツール

サービスツールはシートの裏側にあります。（3-19 ページ参照）

JAU30375

エンジンオイル

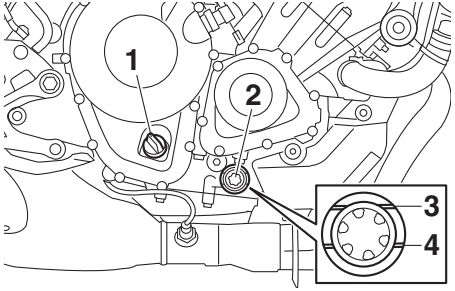
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを２～３分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、２～３分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。



1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照）

JAU47504

エンジンオイルの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
　オイル交換時：
　　2.40 L
　オイルフィルター取り外し時：
　　2.70 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
30000 km 走行ごと

JWA11861

警 告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12102

注 意

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルヤマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

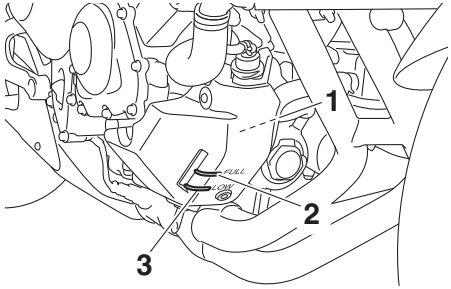
JAU30723

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。

JWA11882

警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

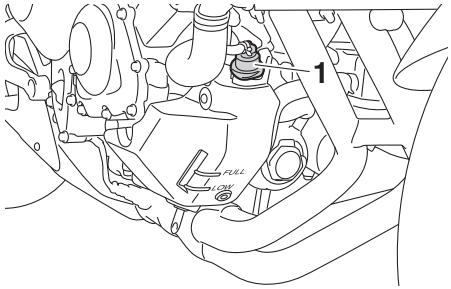
注 意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30811

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルとロアレベルの中間まで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU36765

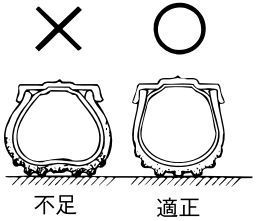
エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。
ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU65340

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
2 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)

要　点

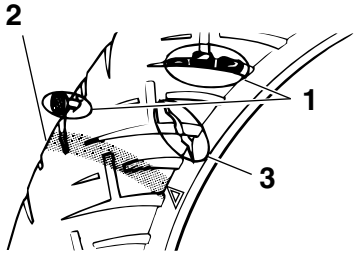
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：
前輪：
120/70 ZR17M/C (58W)
後輪：
180/55 ZR17M/C (73W)
指定タイヤ：
前輪：
BRIDGESTONE/S20F M
後輪：
BRIDGESTONE/S20R M

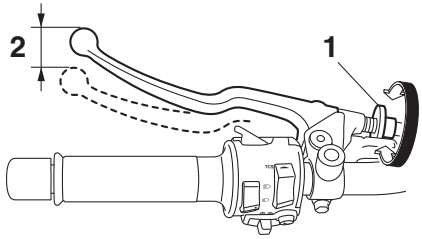
JAU45562

クラッチ

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
10.0–15.0 mm



1. アジャスター
2. 遊び

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

JWA11841

警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA16282

注 意

1か月に一度はクラッチケーブルに注油をしてください。ケーブルの寿命が伸びます。

JAU31121

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びは無調整式です。ブレーキレバーおよびブレーキペダルを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36504

ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

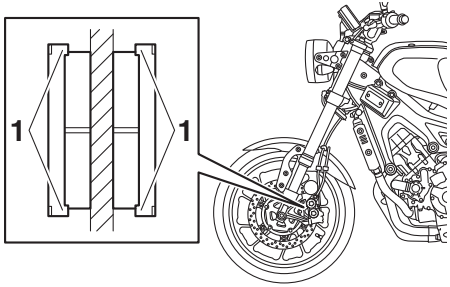
JAU49291

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

＜フロントブレーキ＞

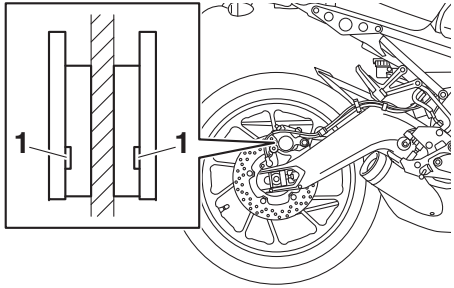
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター

＜リヤブレーキ＞

ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

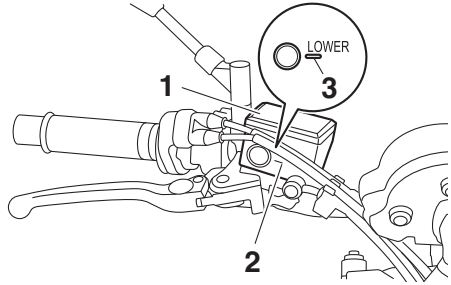


1. インジケーター溝

JAU44232

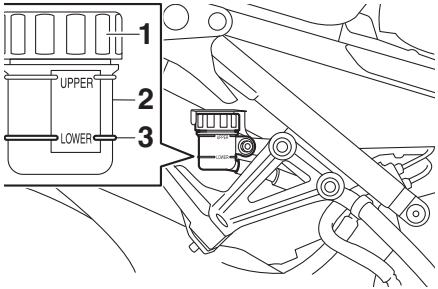
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

<リヤブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

JWA12151

警 告

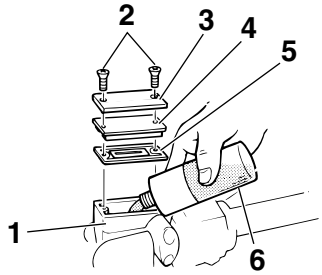
ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

JAU31254

ブレーキ液の補給

<フロントブレーキ>

1. マスターシリンダーのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。

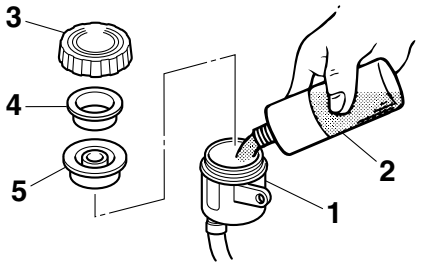


1. リザーバータンク
2. スクリュー
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム
6. ブレーキ液

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

<リヤブレーキ>

1. リザーバータンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. キャップを外し、ダイヤフラムブッシュとダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。



1. リザーバータンク
2. ブレーキ液
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、キャップを取り付けます。

指定ブレーキ液：
ヤマルーブ ブレーキフルード BF-4 (DOT-4)

JWA12072

警 告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

JCA12331

注 意

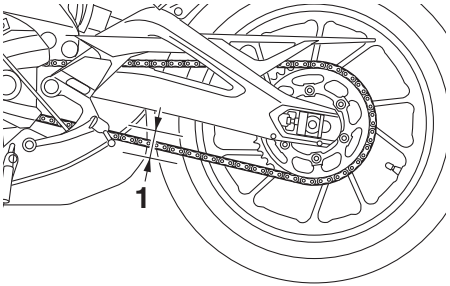
- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

JAU22762

ドライブチェーン

JAU2277E

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要　点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

ドライブチェーンたわみ量：
5.0–15.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

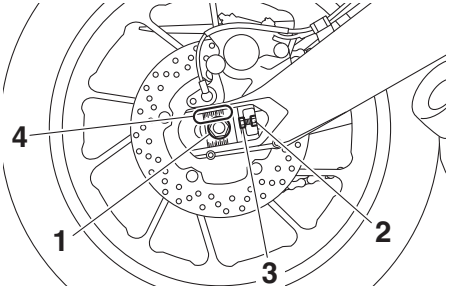
ドライブチェーンのたわみ量が25.0 mm以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。
また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU57971

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. ロックナット
3. アジャスター
4. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
150 Nm (15 m · kgf)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 Nm (1.6 m · kgf)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23026

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

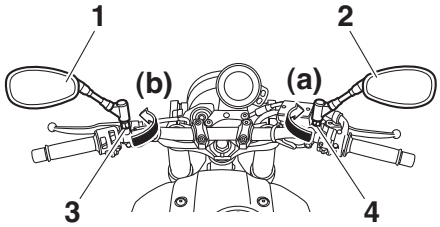
この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆

の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

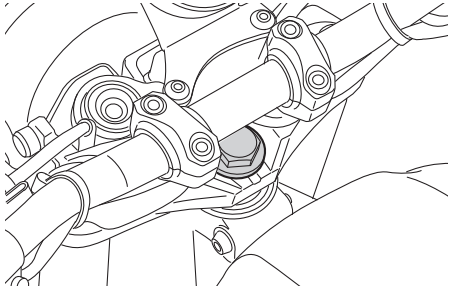
車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12142

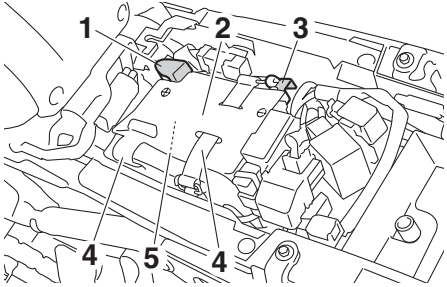
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU61260

バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。（3-19 ページ参照）
2. バッテリーバンドを外します。
3. −（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーとスペーサーを取り外します。



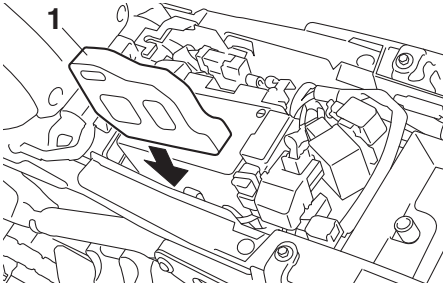
1. ＋リード線
2. カバー
3. −リード線
4. バッテリーバンド
5. バッテリー

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要 点

スペーサーは図の向きで取り付けてください。

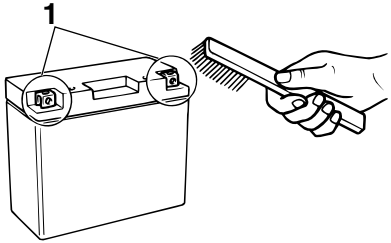


1. スペーサー

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

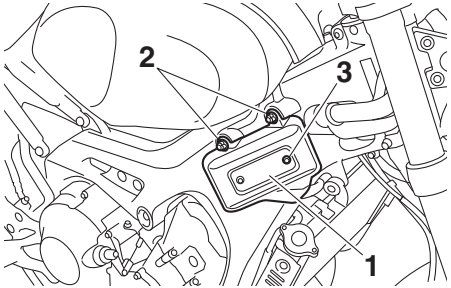
JAU73340

ヒューズ交換

ヒューズボックス1は右側カバーを外したところにあります。

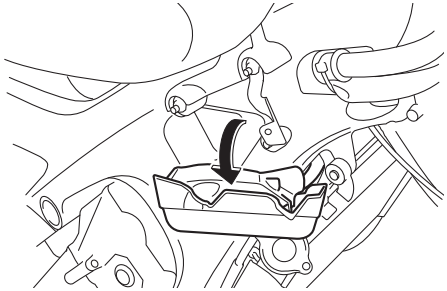
ヒューズボックス1のヒューズ交換は以下のように行います。

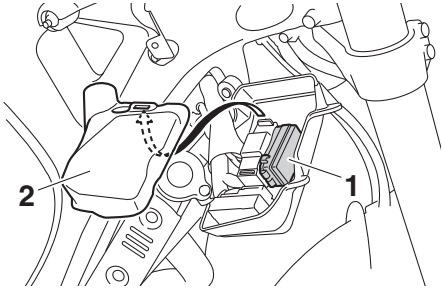
1. ボルトとナットを取り外します。



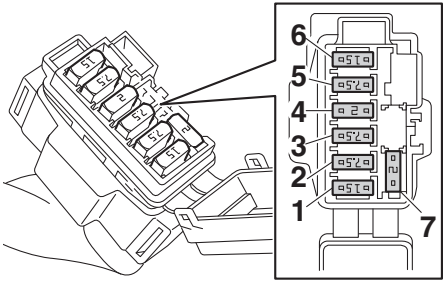
1. 右側カバー
2. ナット
3. ボルト

2. 図のように右側カバーとゴムカバーを取り外します。





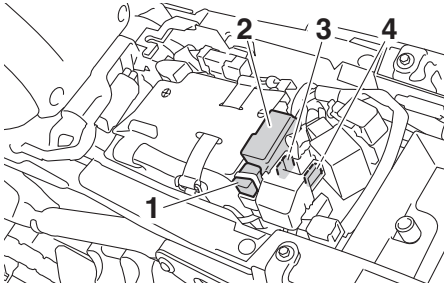
1. ヒューズボックス 1
2. ゴムカバー



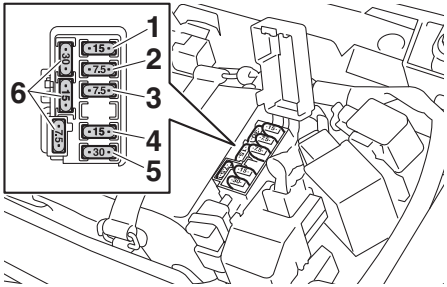
1. イグニッションヒューズ
2. ABS コントロールユニットヒューズ
3. パーキングランプヒューズ
4. DC コネクターヒューズ
5. シグナルヒューズ
6. ヘッドライトヒューズ
7. スペアヒューズ

3. 右側カバーとゴムカバーを元の位置に戻します。
4. ボルトとナットを取り付けます。

メインヒューズ、フューエルインジェクションヒューズとヒューズボックス2はシートの下にあります。（3-19 ページ参照）



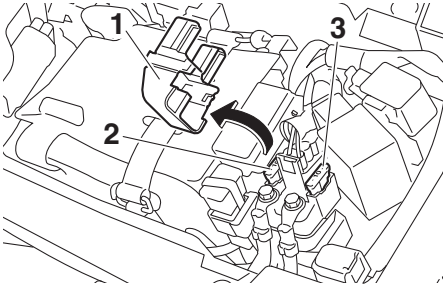
1. メインヒューズ
2. ヒューズボックス 2
3. フューエルインジェクションヒューズ
4. スペアフューエルインジェクションヒューズ



1. ラジエターファンモーターヒューズ
2. バックアップヒューズ（時計／イモビライザーシステム）
3. 電子制御スロットルバルブヒューズ
4. ABS ソレノイドヒューズ
5. ABS モーターヒューズ
6. スペアヒューズ

要　点

フューエルインジェクションヒューズを交換する場合は、スターターリレーカバーを外す必要があります。



1. スターターリレーカバー
2. フューエルインジェクションヒューズ
3. スペアフューエルインジェクションヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：

メイン：
50.0 A
ヘッドライト：
15.0 A
シグナル：
7.5 A
イグニッション：
15.0 A
パーキングランプ：
7.5 A
ラジエターファンモーター：
15.0 A
ABS モーター：
30.0 A
ABS ソレノイド：
15.0 A
フューエルインジェクション：
10.0 A
ABS コントロールユニット：
7.5 A
バックアップ：
7.5 A
電子制御スロットルバルブ：
7.5 A
DC コネクター 1:
2.0 A

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JCA12862

注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

JAU29444

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-16ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

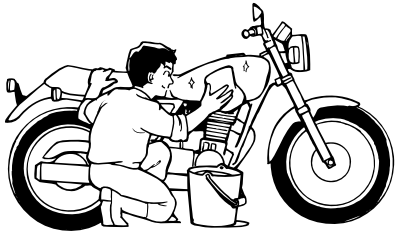
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27795

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**

- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

⚠ 警　告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注　意

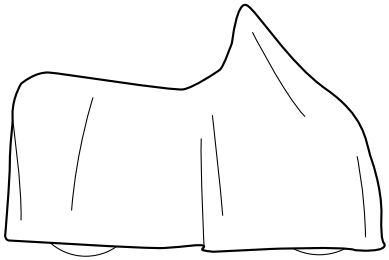
- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

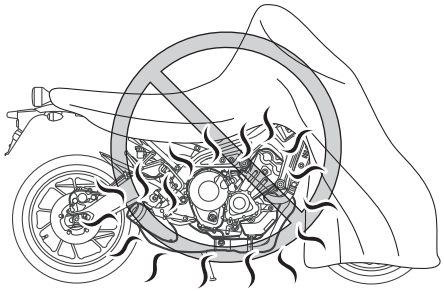
JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28085

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28114

ヤマルーブプレミアムシンセティック

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下のURLを入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

http://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

寸法 :

全長 :
2075 mm
全幅 :
815 mm
全高 :
1140 mm
シート高 :
830 mm
軸間距離 :
1440 mm
最低地上高 :
135 mm

重量 :

車両重量 :
195 kg
分布荷重（前）:
99 kg
分布荷重（後）:
96 kg
車両総重量 :
305 kg
分布荷重（前）:
115 kg
分布荷重（後）:
190 kg
乗車定員 :
2 名

性能 :

定地燃費（国土交通省届出値）:
27.3 km/L/60 km/h
最小回転半径 :
3.0 m
最高出力 :
81 kW (110 PS)/9000 r/min
最大トルク :
88 Nm (9.0 kgf-m)/8500 r/min

エンジン :

行程 :
4 ストローク
冷却方式 :
水冷
動弁機構 :
DOHC
配列 :
直列
気筒数 :
3 気筒
総排気量 :
845 cm^3
内径 x 行程 :
78.0 × 59.0 mm
圧縮比 :
11.5 : 1
エアフィルターエレメント :
湿式ろ紙
クラッチ形式 :
湿式 , 多板
変速機形式 :
常時噛合式 6 速
始動方式 :
セルフ式

車体 :

フレーム形式 :
ダイヤモンド
キャスター :
25.0 度
トレール :
103 mm

ステアリングシステム :

ハンドル切れ角（左）:
32.0 度
ハンドル切れ角（右）:
32.0 度

燃料 :

種類 :
無鉛プレミアムガソリン
フューエルタンク容量 :
14 L

予備容量 :
2.6 L

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式ダブルディスクブレーキ
パッド厚さ :
4.5 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
パッド厚さ :
6.0 mm
使用限度 :
1.0 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

フロントサスペンション :
種類（前）:
テレスコピック
スプリング :
コイルスプリング
ショックアブソーバー :
オイルダンパー
ホイールトラベル（前）:
137 mm

リヤサスペンション :
種類（後）:
スイングアーム（リンク式）
スプリング :
コイルスプリング
ショックアブソーバー :
ガスオイルダンパー
ホイールトラベル（後）:
130 mm

フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
120/70 ZR17M/C (58W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/S20F M

リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
180/55 ZR17M/C (73W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/S20R M

動力伝達機構 :
1 次減速比 :
1.680 (79/47)
1 速 :
2.666 (40/15)
2 速 :
2.000 (38/19)
3 速 :
1.619 (34/21)
4 速 :
1.380 (29/21)
5 速 :
1.190 (25/21)
6 速 :
1.037 (28/27)
2 次減速比 :
2.812 (45/16)

エレクトリカル :
電圧 :
12V
点火方式 :
TCI

ヘッドライト :
ヘッドライト球 :
ハロゲンバルブ

バルブワット数 x 個数 :
ヘッドライト :
H4, 60.0 W/55.0 W x 1
ブレーキ / テールランプ :
LED

方向指示灯（前）:
10.0 W × 2
方向指示灯（後）:
10.0 W × 2
番号灯 :
5.0 W × 1
メーター灯 :
LED
ニュートラルランプ :
LED
方向指示器表示灯 :
LED
オイルレベル警告灯 :
LED
ヘッドライト上向き表示灯 :
LED
冷却水温警告灯 :
LED
ABS 警告灯 :
LED
エンジン警告灯 :
LED

エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量 :
オイル交換時 :
2.40 L
オイルフィルター取り外し時 :
2.70 L

冷却水容量 :
リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.25 L
ラジエターと全ての経路 :
1.93 L

ドライブチェーン :
たわみ量 :
5.0–15.0 mm
たわみ量（リヤクッション伸び切り時）:
5.0–15.0 mm
フロントブレーキレバー遊び :
7.5–16.5 mm
ブレーキペダル遊び :
8.4–11.1 mm

ケーブルとレバーの遊び :
スロットルグリップ遊び :
3.0–5.0 mm
クラッチレバー遊び :
10.0–15.0 mm

タイヤ空気圧（冷間時）:
1 名乗車 :
前輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪 :
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
2 名乗車 :
前輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪 :
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)

バッテリー :
バッテリー型式 :
YTZ10S
バッテリー容量 :
12 V, 8.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK/CPR9EA9
プラグギャップ :
0.8–0.9 mm

ヒューズ容量 :
メイン :
50.0 A
DC コネクター 1:
2.0 A

ヘッドライト :
15.0 A
シグナル :
7.5 A
イグニッション :
15.0 A
パーキングランプ :
7.5 A
ラジエターファンモーター :
15.0 A
フューエルインジェクション :
10.0 A
ABS モーター :
30.0 A
ABS ソレノイド :
15.0 A
ABS コントロールユニット :
7.5 A
バックアップ :
7.5 A
電子制御スロットルバルブ :
7.5 A

JAU36642

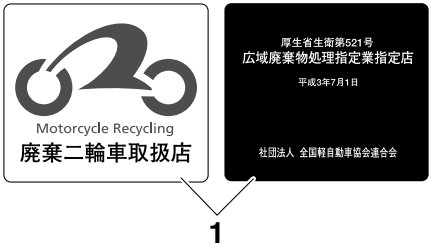
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

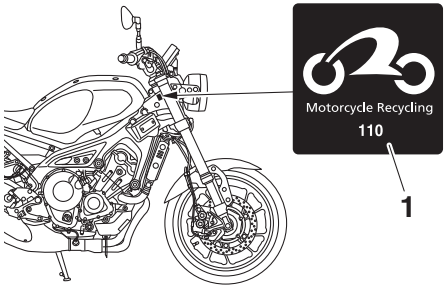
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム

http://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/

公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ

http://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28392

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

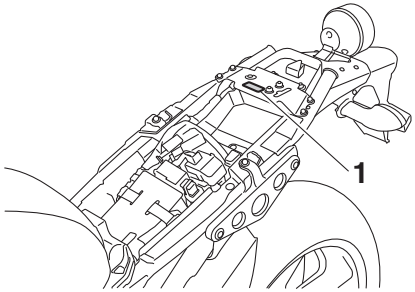
サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-B90

JAU28455

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。

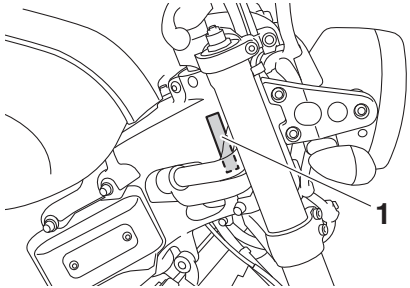


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
XSR900
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

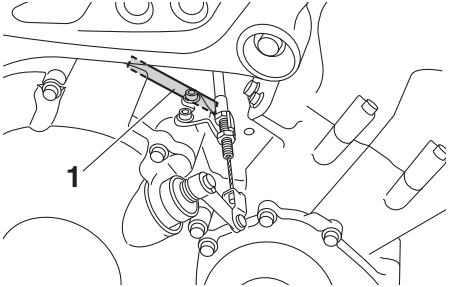


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

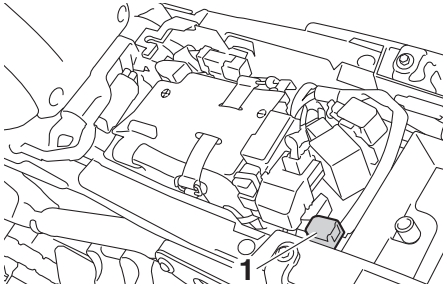


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

索引

あ

あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 7-3
アルミフレーム、
　キャストホイールの取り扱い 7-2
アンダーブラケットの
　取り付け状態の点検
　（ステアリングステム）.....6-14

い

イグニッションサーキット
　カットオフシステム 3-24
イモビライザーシステム 3-2

う

運行において異常が認められた
　箇所の点検 6-19

え

ABS.....3-15
エアクリーナーエレメントの交換.....6-6
エンジンオイル.....6-2
エンジン始動 5-1
エンジンのかかり具合、
　異音の点検 6-3

か

環境・住民の方との調和のために.....1-6

き

キーの取り扱い.....3-1
ギヤチェンジのしかた.....5-2

く

クラッチ 6-8

け

警告灯と表示灯.....3-3
原動機番号 9-3

こ

故障診断コネクター.....9-3
小物入れ 3-20

さ

サービスツール 6-2
サービスマニュアル（別売）の
　紹介.....9-2
サイドスタンド 3-24

し

シート.....3-19
車体各部の給油脂状態の点検 6-14
車台番号.....9-2
車両情報.....9-2

す

スターター／エンジンストップ
　スイッチ 3-14

せ

洗車.....7-1

た

タイヤ.....6-6

ち

駐車.....5-3

て

DC コネクター 3-26
低速、加速の状態の点検.....6-4
D-mode（ドライブモード）.....3-12
点検整備の実施 6-1

と

灯火装置および方向指示灯の
　点検.....6-19
盗難警報器（別売アクセサリー）...3-12
ドライブチェーン 6-12
ドライブチェーンの給油.....6-13
トラクションコントロール
　システム.....3-16

な

ならし運転.....5-3

に

荷掛けフック 3-23
日常点検箇所／点検内容.....4-1
日常点検の実施 4-1
二輪車を廃棄する場合は？ 9-1

ね

燃料 3-18

は

ハザードスイッチ 3-14
バックミラー 6-13
パッシングライトスイッチ.....3-13
バッテリー 6-15
ハンドルスイッチ 3-13

ひ

ヒューズの交換 6-16

ふ

フューエルタンクキャップ.....3-17
ブレーキ.....5-2
ブレーキ液の補給 6-10
ブレーキ液量の点検 6-10
ブレーキパッドの点検.....6-9
ブレーキランプスイッチの点検 6-9
ブレーキレバーの遊び／
　ブレーキペダルの遊び、および
　ブレーキのきき具合の点検.....6-8
ブレーキレバーの握り調整.....3-23
フロントフォークの調整.....3-20

へ
ヘッドライト上下切り替え
スイッチ.....3-13
ヘルメットホルダー.....3-19
ほ
ホーンスイッチ.....3-13
方向指示器スイッチ.....3-13
保管のしかた.....7-3
歩行者と他の車のために.....1-5
ま
マルチファンクションメーター.....3-6
め
メインスイッチ.....3-2
も
モデルラベル.....9-2
り
リヤクッションの調整.....3-22
れ
冷却水.....6-4

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-100-B90

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2016.02-0.5×1
(J)